令和6年度

学校自己評価報告書

学校法人 松樹学園

信州介護福祉専門学校自己評価委員会

令和6年度　自己評価結果

教育方針

介護福祉士として必要な知識、技術を教授するとともに、人間尊重の精神と共感的態度の学びを通じて心豊かな人間性を育て、地域社会に貢献できる専門的福祉人材を養成するため、以下の教育目標を掲げその実現をめざします。

教育目標

1 学生一人ひとりの特性を生かすとともに能力に応じた学びができる場を提供し、地域や福祉現場が求める介護福祉士の養成に努めます。

2 生活者としての「人間」を理解する能力を育成するとともに、「尊厳」の保持と「その人らしく」暮らせる支援が重要であることの学びを通じて、他者に共感できる心豊かな人間性を涵養します。

3 あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識、技術を習得させるとともに、介護実習の体験を通じ、科学的理論に基づいた実践力と個別性への応用力を養います。

4 地域行事やボランティア等に参加する中で「福祉の心」を育み、地域社会に貢献できる人材を養成します。

5 他者を敬い思いやる気持ちを形に表す「接遇」の重要性を理解し、実践できる能力を養います。

6 時代が求める専門的かつ総合的な介護の知識・技術を持つ介護福祉士としての国家資格の習得を目指し、人間的にも社会的にも認められる人材を養成します。

実施職員　6人

評価基準	4	良く取り組んでいる
	3	まあまあ取り組んでいる
	2	あまり取り組めていない
	1	まったく取り組めていない

※（　）内は昨年度評価数値

①　教育理念・目標・育成人材像等			評価	平均
評価項目	1	理念・目標・育成人材像は定められているか	3.50	3.22 (3.00)
	2	特色ある教育活動に取り組んでいるか	3.00	
	3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.17	

自己評価結果及び分析

・理念、目標、育成人材像については3つのポリシーも含めて、学校説明会やパンフレット、ホームページで公開し、共通認識に努めている。
・教職員会議、日々の教職員間のコミュニケーション等を通して教育活動についての情報共有、教育の方向性の確認をしている。
・近隣町会の要請に応え、ミニデイサービスに参加するとともに、地域社会を意識したゼミナールでの教育活動を実践することができた。

取り組み・改善方法等

・地域に根ざした学校として、近隣町会だけではなく新たな地域貢献、地域社会との交流機会を増やしていく必要がある。
・2年間の在学中を通して地域社会の課題に取り組み地域福祉活動の実践を図る。

②　学校運営			評価	平均
評価項目	4	運営方針は定められているか	3.50	3.17 (2.96)
	5	事業計画は定められているか	3.50	
	6	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	3.17	
	7	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	2.67	
	8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.00	

自己評価結果及び分析

・運営方針、事業計画など基本的な計画は定められている。
・学生・保護者との情報連絡アプリケーションを導入し、情報共有の迅速化と充実を図ることができた。
・教員を1名増員し、教育内容の充実に力を注いだが、学生個々の課題について丁寧な対応のためには勤務

取り組み・改善方法等

・教員数（常勤・非常勤）を増やし、業務量の調整、効率化を図る。
・適切な人事処遇のための面談等の体制を整える。

③　教育活動			評価	平均
評価項目	9	教育目標、育成人材像は、求められる資格及び業界のニーズに向けて正しく方向付けられているか	3.67	3.61 (3.27)
	10	教育機関としての就業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.83	
	11	カリキュラムは体系的に編成されているか	4.00	
	12	教育課程に関する業界・関係施設等の外部の意見を反映しているか	3.33	
	13	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.67	
	14	教育目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.67	
	15	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.67	
	16	資格取得の指導体制はあるか	3.33	
	17	教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取り組みは行われているか	3.33	

自己評価結果及び分析

・教育カリキュラム、シラバス内容を今年度入学生より変更し、充実した教育内容に取り組むことができた。
・授業評価等をもとに学校長による教職員の面談を実施し、教職員間の意識合わせや調整を行っている。
・外部研修等に積極的に参加し、教育活動に反映させることができた。
・個々の学生のレベルに合わせた学習指導の時間が不足している。

取り組み・改善方法等

・カリキュラム、シラバス内容の変更についてその効果を検討をする。
・外部からの評価・意見を積極的に取り入れ、具体的な改善に繋げる。
・学習や学校生活での課題のある学生に対しての支援方法を検討する。

④　教育成果			評価	平均
評価項目	18	就職率の向上が図られているか	3.67	3.33 (3.33)
	19	資格取得率の向上が図られているか	3.83	
	20	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.50	

自己評価結果及び分析

・個別性を踏まえたきめ細やかな就職支援が実践できており、早期からの内定に繋げることができた。
・国家試験対策として、成績不良者への補習の実施や個別指導を行い、継続的に支援をしているが、効果的なものとはなっていない。
・新たな取り組みとして、繋心祭開催時にホームカミングデーを開催し、卒業生の動向の把握と、交流の機会を持つことができた。

取り組み・改善方法等

・来年度も引き続きホームカミングデーを開催し、卒業生の状況確認、在校生との交流機会を作るとともに、支援や繋がりについて具体的な体制を作る。
・効果的な国家試験対策をするための個々の学生への支援内容を充実させる。

⑤　学生支援			評価	平均
評価項目	21	就職・進学指導に関する体制が整備され、有効に機能しているか	3.50	3.18 (3.09)
	22	退学率の低減が図られているか	3.50	
	23	学生相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか	3.83	
	24	学生の経済的側面への支援が全体的に整備され有効に機能しているか	3.50	
	25	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	3.50	
	26	課外活動に対する支援体制が整備され、有効に機能しているか	2.83	
	27	学生の生活環境への支援は行われているか	2.00	
	28	保護者と適切に連携しているか	3.83	
	29	卒業生への支援体制はあるか	2.17	

自己評価結果及び分析

・定期的、必要時随時に学生と面談し、教育活動だけでなく生活上の課題も学生と共有し支援に努めている。
・課題のある学生に対しては、学生本人だけではなく保護者にも情報共有を行い、課題解決のための面談を適時行っている。
・メンタル面での不安がある学生に対してはメンタル支援の活用を促し、効果を得ている。
・学生の個々の課題については、常に教員間内で情報共有をし、支援をすることができている。
・新たな取り組みとして繋心祭同日に卒業生の交流の場としてホームカミングデーを開催し、卒業生の動向の把握に努めた。

取り組み・改善方法等

・メンタル支援に加え、多様な学生の課題に対応できるように、アドバイスを受けることができる相談機関等の検討が必要である。
・遠隔地から通学する学生に対して、アパート探しの支援など学校としても取り組んでいく。
・ホームカミングデーの実績に基づき、来年度の開催や卒業生組織作りなどを検討する必要がある。

⑥　教育環境			評価	平均
評価項目	30	施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか	3.33	3.55 (3.33)
	31	施設実習等について十分な教育体制を整備しているか	3.83	
	32	防災に対する体制は整備されているか	3.50	

自己評価結果及び分析

・必要とされる定期点検等は実施できている。
・年2回の総合防災訓練は外部専門家も参加し実施できている。
・経年劣化等による情報機器（教員用ＰＣ）や備品（学生用印刷機、プロジェクター、教室椅子）等の入れ替えを行った。

取り組み・改善方法等

・経年劣化等による学校備品・機器、教育のため教材、機器、設備等の入れ替えを数年先を見据えて計画、予算化し具体的に進める必要がある。

⑦　学生募集と受入れ			評価	平均
評価項目	33	学生募集活動は、適正に行われているか	3.50	3.58 (3.60)
	34	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.50	
	35	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3.50	
	36	学納金は妥当なものとなっているか	3.83	

自己評価及び分析

・学校説明会の回数を増やし、参加者数の増加につながった。
・外国人留学生の募集活動を積極的に行い、外国人留学生の受験者数が増加した。
・進路相談会やガイダンスへの参加を積極的に行い、昨年よりも受験者数は増加した。
・学校説明会のPRや学校での活動、学生の様子などをSNSで積極的な広報に努めている。
・経済的な支援が必要な学生に対して、学納金や奨学金についての相談や支援について丁寧に行い、学生確保の一助となっている。

取り組み・改善方法等

・経済的な支援が必要な学生に対して支援する事業所等の開拓をする。
・学生の活動の場を広げ、広報活動に繋げていく。

⑧　財務			評価	平均
評価項目	37	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.67	3.58 (3.00)
	38	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.83	
	39	財務について会計監査が適正に行われているか	4.00	
	40	財務情報公開の体制整備はできているか	3.83	

自己評価及び分析

・学生確保が不安定な状況であり、中長期的な財務基盤の展望予測が難しい。
・財務情報を適切に情報公開している。
・予算は有効に執行されており、概ね順調に収支計画にそって運営されている。

取り組み・改善方法等

・学生教育に必要な予算の確保と同時に学生数に応じた予算作成を行う。
・継続して取り組んでいく。

⑨　法令等の遵守			評価	平均
評価項目	41	法令、設置基準等を遵守し適正な運営がなされているか	3.67	3.59 (3.45)
	42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.17	
	43	自己評価を実施し課題解決に努めているか	3.67	
	44	自己評価結果を公開しているか	3.83	

自己評価及び分析

・今年度は長野県健康福祉部による指導調査があり（前回は平成30年度）、指摘事項はなく法令等に基づき適切な学校運営をしていることを公的機関により確認できた。
・法令、設置基準については遵守されているが、全教職員が充分に理解はできていない部分もある。
・自己評価結果についての公開はホームページ上や広報誌により適切に行われている。

取り組み・改善方法等

・自己評価や授業評価を教職員間で共有し活用し教育活動の資質向上にに反映できるような体制を作る。
・現代の実情や新しい考え方等を意識し、学則や規程が社会的に適切であるかを点検をする機会が必要である。

⑩　社会貢献			評価	平均
評価項目	45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.50	3.50 (3.30)
	46	学生のボランティア活動を奨励し、支援しているか	3.50	

自己評価及び分析

・地域貢献活動の一環として、地元商店街の学外清掃活動を定期的に行っている。
・新型コロナウィルス感染症により中止をしていたボランティア活動を徐々に再開し推奨している。
・地域との交流等を少しずつではあるが、新たな活動として取り組み、地域から声がかかるようになってきている。

取り組み・改善方法等

・授業内容に地域社会についての理解を深めるための学習を組み入れ、さらに社会活動や貢献の場を広げていくことを検討する。